

おおもと

ん！もどしりたい

××××★××× (43)

三代さまと尊師さまのご結婚。とてもおめでたいお話に、モンちゃんも幸せな気分になりました。さて、今回からは別の方のお話に移ります。なんと、モンちゃんはどなたかがすぐに分かったみたいですよ！



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さて、三代さまと尊師さまが結婚され、お二人の間には三女一男の、四人のお子さまが生まれになった。そのうちのお一人が……
モン 四代教主さまってことね！
 おじい おお、よく分かったの、モンちゃん！
モン これまでのお話聞いていたら、だいたい想像がつかました♪
 おじい なんじゃ、読まれておったか(笑)。
モン お写真の尊師さまのお隣の方だよ。
 おじい そうじゃよ。お名前を出口聖子さまとい

うんじゃ。
モン とても優しいそうなお顔だよ。
 おじい そうじゃなあ。四代さまは、三番目のお子さまで昭和十年二月十九日に綾部で誕生された。ご命名に際してじゃが、三代さまからいくつかがご提案があっても、か



なかなかやしまるなあふふ……



す……この想像はどのくらいか



らかわれたり、いじめられたりしてはかわいそうだ”と、尊師さまはなかなか納得されず、最後は聖師さまに名付けをお願いされたそうじゃ。

モン 尊師さまらしいエピソードだね。

おじい お子さまのため一生懸命考えられる尊師さまのお姿が目に見えなぶようじゃな。

この四代さまのご誕生も、ご夫婦にとって大きな喜びではあったのじゃが、四代さまが生後十カ月のとき、第二次大本

事件が始まってしまいうんじゃ。

モン うわあ、事件かあ。お話の中で何回かその言葉を聞いたけど、昔の大本はとても大変だったんだね。

おじい この事件によって、聖師さま、二代教主さまはじめ、尊師さまや出家の成人男性は警察に連行され、三代さまも事件解決のために尽力された。四人の幼いお子さまたちは、どれだけ不安な日々を過ごされたことじゃろうな。

モン 考えるだけで、なんだか悲しくなってきたちやうね。

おじい 本当にそうじゃ。そして昭和十二年、ご一家は亀岡に転居されるが、昭和十六年には第二次世界大戦という戦争が

始まって、日本自体が大変な状況になってしまふ。国相手に事件の闘争を続ける大本は、さらに厳しい立場になったわけじゃ。
モン 次から次へって感じだね。

おじい それでも昭和十七年、全て解決とはいかなかったが、聖師さまたちは無事に釈放され亀岡の家に戻ってこられた。そしてその翌年、三代さまご一家は兵庫県の竹田というところに引っ越し、そこで農業にいそしみながらのご生活が始まったんじゃ。

モン そっか、ひとまず警察から帰ってこられて良かったね。

おじい じゃが、ご苦労は続いた。移住に伴い、四代さま方は亀岡から竹田の学校に転校されたん

じゃが、事件により、大本への批判的な空気がそこにも流れていたんじゃ。
モン なるほど、警察に逮捕されたら、普通は悪いことをした人たちだって思っちゃうもんね。
おじい そうなんじゃ。ちよっと一服したら、そのあたりを詳しく話すでしょう。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

四代さまのご誕生、ご命名について、ほほ笑ましいエピソードがたくさんありましたが、大本事件は、まだ幼い四代さまたちにも大きな影響を与えました。亀岡から転居した竹田においても、変わらぬ厳しさであったようです。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい ふゝ、モンちゃんが入れてくれたお茶はおいしいのゝ。
 モン でしょ♪
 それはそうと、竹田での四代さまの生活はどうだったの？
 おじい そつじやったな。転校先の小学校では、聖師さまの孫というだけで悪口を言われたり、学校へ来るなと脅されたり、ランドセルを放り投げられたりと、随分つらい思いをされたようじゃ。
 モン うゝん、許せない！
 おじい 五年生のときには、クラス全員が敵となり、一学期の間、ずつ

といじめを受けられたんじゃ。
 モン もおゝ、先生に言っちゃえばいいのぢー！
 おじい それでも、四代さまは「けんかしても負かなかった。絶対に泣かなかった」と後に語られておる。めげずに立ち向かわれたんじゃ。



おだんごもあつて、幸せじゃ〜♪



お話の扉は、あつて...



モン すごいっ！
おじい 亀岡の小学校に通っているころは、先生から「気が弱すぎるから、もっと強くならないと」と言われておったそうじゃが、竹田でのご生活の中で、次第に強くなっ
 ていかれたんじやろう。
モン つらくて悲しかつたと思うけど、負けずに頑張って、強い女の子に

なったんだね。
おじい しかし、中学、高校に進学してもなお、風当たりは強かったようじゃな。中学からは、京都市内に住まいを替えて通学されたんじやが、そこで「出口」の名は知られており、「大本教」とばかにされた」と当時を振り返っておられる。
モン 悪い印象って、な

かなか消えないんだね…。
おじい 残念なことじゃ…。じゃが、やはり四代さまはくじけることはなかった。高校では、宗教について、五、六人と論じ合うことがあったが、一対複数でも絶対に負けなかったそうじゃ。
モン 四代さま、カッコいいなあ。
おじい うむ！ おじいちゃんも、同感じゃ。
 さて、いろいろと困難を乗り越えられた四代さまはその後、大学へ進まれ、卒業後は京都市の中学校で国語の先生として働かれることとなった。
モン へえー、先生だったなんて知らなかった！
おじい 教師として勤務されたのは一年間じやつたがな。退職された後は、大本の職員となられた。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！

〒621-8686 亀岡市天恩郷
 「みろくのよ」編集室
 「もつとしりたい おおもと」係

そして奉仕者の三諸齋さんという方とご結婚になり、三諸聖子となられたんじや。
モン そっかあ。たくさん大変なこともあったけど、幸せになれて良かったね。
おじい そうじゃな。
 次は、四代さまがとてもお好きだったものについて、話すとしてよう。

おおもと

ん！もどしりたい

××××★××× (45)

どんな困難にもめげない四代さまのお姿が、モンちゃんにはとても頼もしく、かっこよく映ったようです。今回は、そんな四代さまがお好きだったものについて、おじいちゃんが詳しく聞かせてくれます。



モンちゃん



おじいちゃん



モン 四代さまが好きだったものって？

おじい それはなあ、草花じゃ。

モン 草花って、草とかお花ってことだよな？

おじい そうじゃよ。自然の草花をこよなく愛された三代さまの影響もあって、四代さまも早くから植物に関心を持っておられたんじゃ。

モン そうなんだ。

おじい 亀岡の天恩郷に花明山植物園という所があるんじゃが、四代さまは十代のころから、その竹内敬園長と一緒に植物採集によく出掛けられ

たそうじゃ。「聖子さんは、それはそれは熱心で植物研究に一生没頭し、日本婦人と植物に関する著作の抱負を常に語られていきます」と、竹内園長が後に話しておられるように、植物について真剣に学ばれたようじゃな。

モン 植物研究って、なんかかっこいいね。博士みたい！

おじい ははは、そうじゃの。博士ではないが、その後、竹内園長の後を継いで、四代さまが園長になられたんじゃよ。

モン そっかあ。好きなものに囲まれてお仕事できるなんて、最高だね。

おじい 園長になられてからも、植物採集のため、全国を飛び回るなど、精力的に動かれた。

モン 植物採集って、植

物を探ってくるんだよね。
集めた植物はその後どうなるの？

おじい 標本にするんじゃないよ。研究資料などにするために、乾燥させて保存する。押し花を見たことがあるじゃろう。あ
あいう感じじゃ。

モン うん、あるある。
なるほど、たくさんの押し花を作っていくのか。

おじい 四代さまが園長になられたころ、植物園にはほとんど標本が残って
いかなかったそうじゃが、職員の方と一緒にコツコツと採集を続け、一万点に達したときは、バンザイをして喜ばれたそうじゃ。しかも、その出来は、国内はもちろん世界からも高い評価を受けるほどのものらしいぞ。
モン すごいことだね。

おじい 四代さまの植物に対する情熱が分かったところで、この『草木によせて』という本を紹介しようかのお。花明山そのさんという方の本じゃ。
モン ふむふむ、いろんな花の写真が載ってるね。

おじい 花明山そのさんは、実は四代さまのことじゃ。
モン え、そうなんだ！

おじい 四代さまは、とてもユーモアあふれたお方での。そのお人柄が、ご文章にもよく表れておる。そうじゃのお、ここなんか、おじいちゃんが好きなところじゃ。
「ヒメジオオンの独り言」その一
おいらはヒメジオオン。嫌われものだ。
路にも、野にも、お山にも、田舎都会の区別な

く、どこにも生えるヒメジオオンさ。

ザマーミヤガレ、イッヒイヒイ。(中略)

おいらを見れば目の敵、見つけ次第に引っこ抜く、エンマ様みたいな奴もいる。

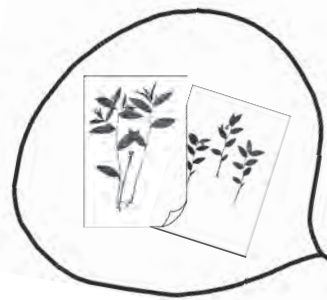
それでもおいらは負けはせぬ。おいらの住み家は世界中、あちらこちらと増えてゆく。

ザマーみやがれ、イッヒイヒイ」(『続・草木によせて』)

モン ははは。本当だ。絵本読んでるみたい！

おじい とても分かりやすいから、モンちゃんももう少し大きくなったら、しっかり読めるようになるじゃろう。

モン うん、漢字は難しいけど、お花の写真を見るだけでも楽しいかも。



本も読みたいし、いろんな標本も見てみたい！



きょうしゅう
教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待つてまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのよ」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

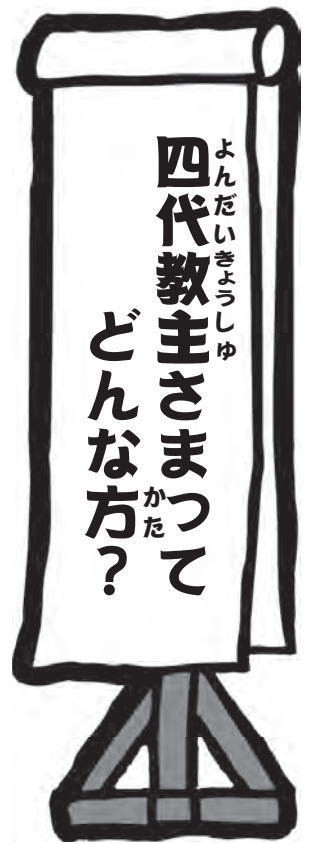
四代さまが「花明山その、として書かれた『草木によせて』。その中に掲載されている珍しい草花の数々に、モンちゃんは興味津々です。前回に続き、植物園の園長として活躍される四代さまのご様子を聞いていきましょう。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい モンちゃん、『草木によせて』を見てみて どうじゃったかな？
モン 面白かった！知らない植物がたくさんあって、なんかワクワクしたよ！
おじい そうか、良かった良かった。
 四代さまはその後も園長として植物園の運営に力を注がれたが、その傍ら、三代教主さまのご名代として、全国にある大本の機関へ出向き、祭典に臨まれたり、地方の信者さんたちと親しく接したりしておられたんじゃ。



へい、こんな花があるのだよ。

モン 名代？
おじい ああ、ごめんごめん。教主さまの代わり...という意味じゃ。
モン なるほど。園長もして、三代教主さまの代わりもしてとなると、すごく忙しかっただろうね。
おじい そうじゃなあ(笑)。じゃが、そうして地方へ出向かれた折も、少しの空き時間を利用しては植物採集に励まれたそうじゃよ。

モン 本^{ほん}当^{とう}に草^{くさ}花^{はな}が好^すき
で、研^{けん}究^{きゅう}熱^{ねつ}心^{しん}だっ^{たん}だ
ね。

おじい そう。そして熱
心なのは植^{たく}物^{ぶつ}に對^{たい}してだ
けでなく、お稽^{けい}古^こ事^{ごと}に對^{たい}
してもじゃ。三代さま同
様、能^{のう}楽^{がく}や茶^さ道^{どう}、短^{たん}歌^か
取^とり組^くまれ、八^や雲^{くも}琴^{こと}に關^{かん}
しては、長^{なが}年^{ねん}稽^{けい}古^こを続^{つづ}け、
指^し導^{どう}者^{しゃ}になられたほど
じゃ。

モン 大本^{だほん}の教^{きょう}主^{しゅ}さまた
ちはみんな、いろいろな
お稽^{けい}古^こ事^{ごと}をされていてす
ごいよね。



家^かやからな」とおっしやつ
ている。四^よ代^{だい}さまご自^じ身^{しん}
も「私^{わたし}は不^ふ器^き用^{よう}なので、
人^{ひと}の倍^{ばい}してもできませぬ。
三^{さん}倍^{ばい}しないとできませぬ」
とおっしやつているが、
そのお言^{こと}葉^は通^{とお}り、どのお
稽^{けい}古^こ事^{ごと}も、努^こ力^{りき}に努^こ力^{りき}を
重^{かさ}ね、精^{しやう}進^{しん}しておられた
んじゃ。

モン そっか、私^{わたし}もピア
ノの練^{れん}習^{しゅう}、もつとがんば
るよ。。

おじい ははは、その調^{ちやう}
子^しじゃ、モンちゃん。

さて、四^よ代^{だい}さまがどの
ような方^{かた}だったか、だん
だんと分^わかかってきたかな。
モン うん。強^{つよ}くて、優^{やさ}

しくて、努^こ力^{りき}家^かで面^{めん}白^{ぱく}
方^{かた}!

おじい そうじゃな(笑^{わら})。
そんな四^よ代^{だい}さまは、平^{へい}成^{せい}
二^に年^{ねん}九^く月^{がつ}二^{じゅう}三^{さん}日^{にち}、三^{さん}代^{だい}
教^{きょう}主^{しゅ}さまのご昇^{しょう}天^{てん}と同^{どう}時^じ
に、四^よ代^{だい}教^{きょう}主^{しゅ}となられた。
今^{いま}から三^{さん}十^{じゅう}一^{いち}年^{ねん}前^{まえ}のこと
じゃ。三^{さん}代^{だい}さまの、教^{きょう}主^{しゅ}
としてのお姿^{すがた}に倣^{なら}い、嚴^{げん}
しくもお優^{やさ}しく、氣^きさく
なお人^{ひと}柄^{がら}で、信^{しん}徒^とを指^し導^{どう}
し、お導^{みちび}きく^くださったん
じゃ。

モン 平^{へい}成^{せい}かあ。。そん
なに大^{おほ}昔^{せき}のお話^{はなし}ではな
くなってきたんだね。今
までより、なんだか四^よ代^{だい}
さまが近^{ちか}くに感^{かん}じられる



さほいたいときもあるけど、
鐘^{かね}習^{しゅう}かんはうっ!

なあ。

おじい そうじゃよ。おじ
いちゃんなんて、ついこの
間^{あいだ}のことのように覺^{おぼ}えてお
る。いろいろと教^{きょう}主^{しゅ}さま方^{かた}
のお話^{はなし}を聞^きくと、ちよつと
親^{しん}近^{きん}感^{かん}が湧^わいていいもん
じゃろう。

モン うん!
おじい ではもう少し、四^よ
代^{だい}さま時^じ代^{だい}のこ^こを話^{はな}すと
しようかのお。



教^{きょう}主^{しゅ}さまたちについて分^わからないこと、
疑^ぎ問^{もん}に思^{おも}ったことは、ど^どん^どんお手^て紙^{がみ}で
送^{おく}ってね。待^{まち}ってまーす!!

〒621-8686 龜^{かめ}岡^{おか}市^し天^{てん}恩^{おん}郷^{きょう}
「みろくのよ」編^{へん}集^{しゅう}室^{しつ}
「もつとしりたいおおもと」係^{けい}

これまで、開祖さまから続く歴代の教主さま方のお話を聞いてきたモンちゃん。四代教主さま時代は、そう遠くはない昔のことだと気づき、四代さまを身近に、親しく感じることができ、少しうれしくなったのでした。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さて、教主となられた四代さまは、以前にも増してお忙しい毎日を送られるようになった。
モン うわー、前よりももっとかあ…大変だね。
おじい ここで、ご就任になってからのいろいろな出来事について話してみようと思うんじゃが、大きなこととしては、長生殿の完成しやな。
モン 長生殿って、綾部にある建物だよな。
おじい そうじゃそうじゃ。五月のひろく大祭、十一月の大本開祖大祭、二月の節分大祭が執行される神殿じゃ。

モン うんうん、いつもお参りに行ってるね。
おじい 長生殿完成までにはいろいろな歴史があつての。大正九年、今の長生殿の後ろにある本宮山に本宮山神殿が建ち上がったが、翌年、第一次大事件によって完成して間もないその神殿は破壊されてしまった。その後、昭和三年、聖師さまは再び神殿造営を発表され、それを「長生殿」とご命名になり、本宮山にはその基礎までできておつた。
モン へー、そうなんだね。
おじい それが、第二次大事件で、その基礎はまたもや壊され、結局、未完成のままに終わってしまった。じゃが、長生殿を建てることはとても重要なご神業であるとし

て、昭和五十九年に三代さまのご指示によって、その建設が公表されたんじゃない。

モン そんなに大切な建物なんだ。

おじい この世にみろくの世をつくるために欠かせない建物だと、聖師さまをはじめ、歴代教主さま方が示されておる。

そうして、開教百年を迎えた平成四年に見事に建ち上がり、全国の信徒は大きな喜びに包まれたんじゃない。

モン 今度は無事に出来上がってよかったね。

おじい そうじゃな(笑)。完成をお祝いする行事は大本信徒だけではなく、綾部の町を挙げて慶祝パレードが行われるなど、地元の方々が大いに盛り上げてくださったんじゃない。

モン すごい、町の人たちまでお祝いしてくれたんだ。

おじい さあ、長生殿については分かっていたかな？
ではもう一つ、四代さま時代に始まったことで、紹介したいことがあるんじゃないか…。

モン なになに？
おじい 全国愛善歌奉納大会じゃ。

モン あ、知ってる。五月に万祥殿で歌う、あれね。

おじい そうじゃ。これは平成七年十一月、開祖大祭時に初めて開催されたんじゃないが、そこには、良い言霊で世を清めさせていたきたいという、四代さまの強いお気持ちがあったんじゃない。

モン 確かに、愛善歌ってきれいな曲で、聞いて

て気持ちいいもんね。

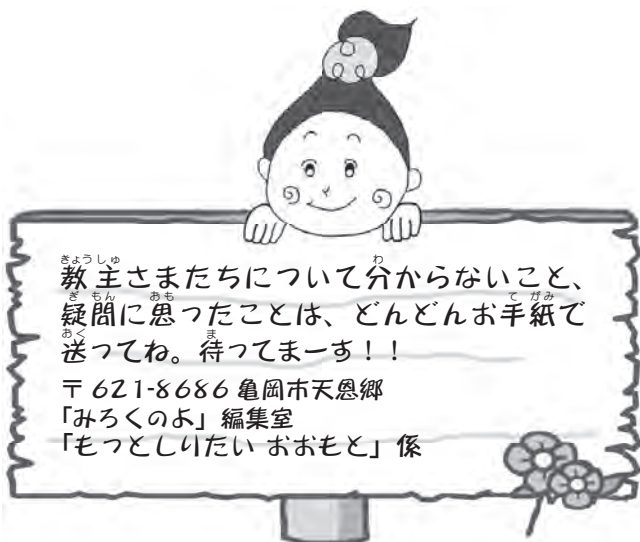
おじい やっぱり、良い言霊が響き渡っているからじゃろつなあ。

最初の大会以降は、五月のみろく大祭前に行われることになり、大型連休と重なることもあって、さらに多くの参加者でにぎわうようになった。四代さまご自身も、出口家一門として参加され、大会を盛り上げられたんじゃないよ。

モン なるほど。それが、今もずっと続いてるってわけだね。

おじい モンちゃんも次に参加するときは、きれいな言霊で世界を清めつつもりで歌ってみるといいかもしれない。

モン うん、なんか良い声が出そうな気がしてきたぞ。



おおもと

ん！もどしりたい

××××★×××× ㊹ 最終回

モンちゃんも、気付けば随分と長い時間、おじいちゃんからいろいろなお話を聞かせてもらいましたね。モンちゃんにとって、大昔から続く歴代の教主さま方のエピソードはどれも面白く、興味深いものばかりでした。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さてさて、四代さまのエピソードをいろいろ紹介してきたが、他にも、四代さまが精力的に取り組まれたことはたくさんある。その中でもモンちゃんに知っておいてほしいことがあるんじゃないか。

モン なになに？

おじい それは生命倫理問題への取り組みじゃ。

モン 生命倫理？

おじい 人の生死に、医療がどのように関わるかという、ちよつと難しい問題なんじゃが…。

モン 私に分かるかな…？

おじい 分かりやすく話すとしよう。平成九年、今

から二十四年ほど前じゃが、「臓器移植法」という法律が施行された。

モン …。

おじい ごめん、ごめん(笑)。臓器移植というのは例えば、心臓に重い病気を持っている人がいるとす。普通の治療ではもう治すことができないから、他の人の健康な心臓をその人の体に移し、また元気な体に戻そうというものじゃ。腎臓や脾臓といった臓器についてもそうじゃ。

モン うーん、ちよつと怖いけど、お医者さんはすごいね。

おじい 実はこの臓器移植法には大きな問題点がある。それは「脳死」が前提にあることなんじゃ。

モン ノ、ノウシ？

おじい 脳の機能が全て失われ、もう回復すること

とはないという状態じゃ。臓器移植法は、脳死となつた人から心臓やその他の臓器を取り出し、必要としている患者に移植してもよいという法律なんじゃよ。

モン それって、重病の人が助かるってことだね。いけないことなの？

おじい モンちゃん、脳死というのは、本当の人の死ではないんじゃないよ。脳の機能は失われても、心臓は動き、体も温かく、爪も髪の毛も伸びる。脳死の妊婦さんが、自力で出産した例もあるんじゃないよ。

モン え、そうなの？

そんなの、死んでるって思えないよ！

おじい その通りじゃ。聖師さまは、心臓の鼓動が停止して初めて、人は死を迎えるとお示しくたさって

いる。脳死は、生きた臓器を提供してもらつたために、無理矢理つくられた「死」なんじゃ。

モン そうだったんだ…。

おじい 脳死臓器移植は一見、良いことのように思える。患者さんを、家族を救いたいという気持ちは当然のことじゃ。しかし、脳死状態となつた人にも家族がいて、呼吸があり体も温かいその人を、息がなくなるゝ本当の最期まで見守りたいという人も当然いるんじゃないよ。

モン うん、そうだね。

おじい 誰かの死を待ち望むような医療があつてはならないということじゃな。

四代さまは、この法律ができる前、専門家たちが脳死について議論し始めたころから異議を唱え、

法律ができてからは、さらなる反対運動を押し進められた。各地方機関の信徒は街頭に立ち、「脳死は人の死ではありません」と道行く人に強く訴えかけ、多くの反対署名を集めて国に届けるなど、活動は全国的に大きく展開していったんじゃないよ。時には、四代さま自ら街頭に立って、先頭を切つて、信徒を導かれたんじゃないよ。

モン それほど、これは間違ってるって伝えなきゃいけないことなんだね。

おじい そつじや。

さあモンちゃん、随分と長いこと話し込んでしまったなあ。まだ聞かせたいことはあるが、ここでいったん休憩じゃ。

モン たくさん教えてもらって面白かったよ。じゃあ、お外に遊びに行っ

てくるね！

切り替えが早いよ、
気を付けるんじゃないよ？



開祖さまから四代教主さまについて、いろんなエピソードがあつたね！ でも、ここでは紹介できなかったお話はまだたくさんあるんだって。またいつか、みんなと一緒に勉強したいな！